

生活未来科生活福祉コース2回生の授業風景



川田 稜真さん

西川 国弘さん

グエン ティー フォンさん

中尾 梨乃さん
 (奈良県立添上高等学校卒業)

竹原 良一さん



FACE

VOICE

相手の立場になり、知りたいと思う気持ち。
 他者への理解と思いやりを深めた1年間。

2回生になり、昨年1年間で「成長した」と感じる点

坊：1回生の時に比べて、基本的な介護の知識が増え、介助の技術が上がったことでできることが増えました。授業にも少しずつついていけるようになり、相手の立場に立ち、どう行動すれば良いかを考えられるようになりました。

三須磨：今年で20歳になり、去年の自分より物事の考え方が変わったところが一番成長したと思いました。また、他者と協力する力も身につけて勝手に判断などが少なくなったと感じました。



川田：高齢者の方などの介助を行うにあたって、ただ業務として介護をするのではなく、人によって異なる介護があり、ニーズがあるということ学びました。また、人によって違った点からアプローチを行うことが理解できました。

西川：1回生の時は、知らない言葉がたくさん出てきてよくわからないことが何度もありましたが、授業を重ねるごとにだんだんと理解できるようになりました。また、わからないことが出てきたとき、知りたいという意欲が出てくるようになりました。

介護の勉強を通して、楽しいと感じた場面や、 日常で役立つ場面



木村：障がい者支援の学習と実習において、支援する立場でありながら利用者の方から逆に癒しをもらったことは、この道に進んで良かったと思えた事です。その後、特別養護老人ホームでも同じような体験があり、一層この道に進んで良かったと感じることができました。

竹原：公共の交通機関等で困っている高齢者や障がいのある方等を見かけた時に、迷うことなく声かけや手助けができるようになりました。



フォン：アルバイト先の施設で利用者の方の言動を少しでも理解できるようになり、学んだ対応方法を応用すると、良好的な効果を得ることが何度もありました。また、技術等も現場で実践することで、体力の消費が減少したと感じています。

中尾：私は普段、施設でアルバイトをしていますが、介護技術を学ぶ前と後では、自分の体の使い方や、利用者の方に対する敬意や、どうすれば負担が少なく介護ができるのか等、本当に学んだ知識が役立っています。介護の勉強は奥が深く大変な事もありますが、高齢者や障がい者の方をサポートできると思うと頑張れます。



- 1.学外実習
- 2.地域防災避難訓練
- 3.車イス体験授業
- 4.実習報告会
- 5.大学祭で一致団結

VOICE

卒業、国家試験合格に向けての抱負や意気込み

中尾：卒業までの期間を大切に、さらに学びを深めながらクラスの皆と協力して就職活動・国家試験対策を行っていきたいです。

川田：国家試験に合格するための学びだけではなく、その後現場に出てどのように働いていくのかをよく考え、自分が理想とする介護福祉士になれるよう努力していきます。

竹原：2回生は8人という少人数で頑張っています。自分だけではなくクラス全員が合格できるように助け合っていきたいです。

西川：先輩たちが頑張って合格しているのを知っているので、我々も全員で合格することを目指しています。そして、今後の後輩達の目標になればと考えています。



ナラサホ公式SNSアカウント



『プチャセビ』の
バックナンバーを
ご覧いただけます。

